



とらいあんぐる



2021年11・12月

一音会ミュージックスクール発行

「子育て罰」

最近、そういう言葉があることを知りました。衝撃でした。

「子育てが罰だなんて！」というショックではなく、「なんて的確な言葉なんだ！」という衝撃です。

私が幼い娘と息子を育てていた時代は、10数年前のことですが、当時、私は毎日思っていました。

「私は前世、どんな悪いことをしたというのだろうか？」

「なんでこんな目にあっているのだ

ろう？」

理不尽の連続に、もうバチがあたっているのだと思うしかありません。

並の囚人よりも、卑屈になっていたと思います。

私の2人の子どもは、特に扱いにくい子どもたちでしたので、ふりまわされっぱなしでした。家族はガマンすれば良いことですが、よその方に、たくさんご迷惑をおかけしました。

外では、あっちにもこっちにも頭を下げ続ける日々でした。幼稚園に行っても、お医者さんに行っても、公園に

行っても、お店に入っても、謝らなければいけないことの連続です。

もはや気持ちは、立派な“罪人”です。

実際、私は頭を下げ続けていたので、当時、自分がかいていた靴のデザインを、今もよく覚えています。

小さな子どもは、どう育てたって、いうことをきかないこともあれば、泣いて騒いで周囲に迷惑をかけることもあります。親は、身を縮め、周囲に謝りながら、子育てをすることになります。

この「子育て罰」は、そもそもは、子どもを育てにくい世の中を揶揄した表現です。

子どもを育てている中で、他人から叱られたり非難されたり、世間から冷たい目で見られたりすることは、少なくありません。

子どもの病気で仕事を休んだり早退したりする羽目になって、職場でいたまれない思いをすることもあれば、

重要な仕事からはずされてしまうこともあります。果ては、罪悪感から仕事を続けることができなくなるケースさえ、あります。

私は子育て中、大学の教員をしていましたが、仕事をまっとうすることと子育ての両立に、人並みに苦しむ日々でした。これも、どこにでもある平凡な話です。

加えて、子どもには、お金がかかります。親は自分の楽しみに使えるお金が少なくなります。

でも誰も同情しません。「子どもを持ったんだから当然でしょ？」です。逆に、経済的に苦しいのに子どもを持っていると、それすらも非難の的です。

「無計画」といわれてしまいます。

「子どもがかわいそう」とも！

子育て中、いわれてこれほどつらい言葉はありません。

自由な時間もありません。親はやりたいこともガマンです。

とにかく、子育てを発端に、いろい

ろなつらい出来事が起こります。

これは壮大な「罰ゲーム」です。

うっかり子どもの外見のかわいらしさから、バラ色の子育て生活を夢見てしまうと、そのギャップに、よけい苦しむことになります。

今は、ネット時代で、誰もが匿名で意見を言えるようになり、すぐネット世論が形作られてしまいます。

「駅で、ベビーカーがジャマ」

「公共の場では、ベビーカーをたたむべき」

「そもそもベビーカーで、混んだ時間の電車に乗るな」

「エレベーターにベビーカーを乗せるな。車椅子が乗れないじゃないか」

「乗車券のいない幼児を電車の座席に座らせるな」

「特急の自由席に座らせるな」

「車内で子どもが騒いだら、すぐ降りろ」

電車に乗ることひとつとっても、でるわでるわ、非難と要求の嵐です。

ネット世論を真に受けると、子どもを電車に乗せるのに、何が正解か分からなくなります。

レストランに行けば、「子ども連れはうるさい」と冷たい目で見られます。

騒がしいお店ならば良いかもしれない居酒屋に行けば、「子どもを連れてくるなんて非常識」と眉をひそめられます。

ファミレスに行けば、「子連れは客単価が安い上、長居する」と嫌われます。

もはや正解なんてないのかもしれない。

子どもを叱らないと、「ダメ親」と批判されます。

子どもを叱って、子どもが泣くと、虐待を疑われます。



どっちにしたって、責められます。

それが「お母さん」という役回りです。

まさに八方ふさがりです。

私は、この数か月、「逃げて良い」というメッセージを発信し続けています。

最初は、身を守る術の未熟な小さな子どもたちにあてたメッセージでした。

次は、学校という難しい社会を生き抜く思春期の子どもたちにあてたメッセージでした。

今、私が「逃げて良い」といいたいのは、若いお母さんです。

母親になったからといって、急にすごい人になるわけではありません。

急に万能になるわけでもないのに、それを求められるかのような風潮が、おそろしいと思うのです。

「お母さん」も逃げて良い。

「お母さん」も甘えて良い。

何もかも背負わなくて良い。

そう思います。

最近、「若いお母さん」だった頃の私

の母のことを、よく思い出します。

私の母は、私が幼い時に、難病を発症しています。

子育てという苦行の他に、闘病中でもある人でした。まさに八方ふさがりの権化です。

でも、母はいつも明るく、のんきでした。いえ、のんきに見えるようにふるまっていました。

思い出すのは、ある日の食卓の風景です。おとうふが食卓にありました。

母が、突然、「あっちゃん！」と、私を呼びました。私は4歳くらいだったと思います。

母は、ニッコリと歯を見せて笑いました。

私は「なんだろう？」と、母の笑顔を見つめます。

その次の瞬間、母の歯のすきまから、おとうふがニユルニユルと出てきました。口に含んでいたとうふを、歯のすきまから出して見せたのです。

私は驚き、かたまっていました。

母は、満足そうに笑っていました。

そしてもう一度、おとうふを口に含んで、ニッと笑って、歯のすきまから出して見せました。

「きちやない！（汚い）」といって、私は泣き出しました。でも母は、かまわず、とうふを歯のすきまから出す遊びを、しつこく続けていました。

祖母が、とうとう怒りを爆発させます。

「カズコ！ いいかげんにしなさい！」

私は、子どもごころに、「母はなんと子どもっぽい人なんだろう！」と思ったものです。



実際、子どもっぽい人でした。

でも、今は別の感想を持っています。

母は、自分の「お母さん」に甘えていたのだと思います。

母が祖母に怒られている光景は、何度も見たことがあります。母は、幼子のようにふるまって、「お母さん」に叱られることで、心のバランスをとっていたのかもしれない。

時間が流れ、私自身が「若いお母さん」だった時、母は常に私の「お母さん」でした。

孫ではなく、子どもである私の方に明らかに関心が寄っていました。

思い返しますと、私が子どもを持つてからの方が、母は、より「お母さん」らしくふるまっていたように思うのです。

「お母さん」にも、甘えられる人が必要だと、知っていたのかもしれない。

子育ては大事業です。

ただでさえ、おうちの中のことの責

任が集中してしまう「お母さん」は、すべてにちゃんと対処しようなんて思ったらたいへんです。

逃げましょう。

いざという時の「プチ逃避」の手立てを考えておくと、それだけでも、少し気が楽になります。

「プチ逃避」として、私は子どもがかんしゃくをおこした時、トイレにたてこもって本を読んで、精神をしずめたことがあります。感情的に子どもを怒鳴りまくるより、良い結果が得られます。

逃避の方法を見つけて、「つらくなったらまたやろう」と思うと、不思議なもので、心の余裕なのか、つらくなる回数が減るものです。

死んだフリも、よくやりました。突然バタッと倒れると、子どもはウソのように泣きやみます。よろしければ、おためしください。

子育ての責任や負担をすべて親に求める考え方のせいで、「お母さん」は苦

しくなるばかりです。

「子育て罰」なんていう言葉がまかり通るうちは、少子化問題は解決しないでしょう。

「お母さん」が楽しくなければ、子どもも楽しくありません。

「お母さん」が笑っていなければ、子どもは笑えません。

「お母さん」も遊んでふざけて、肩の力を抜くべきです。

「お母さん」は、まず甘えられる人を見つけましょう。

「お母さん」の周りには、どうか「お母さん」を甘えさせてあげてください。

「お母さん」にも逃げ場が必要です。

(江口 彩子)



◆「ピアノ・トライ」にお申し込みをありがとうございます

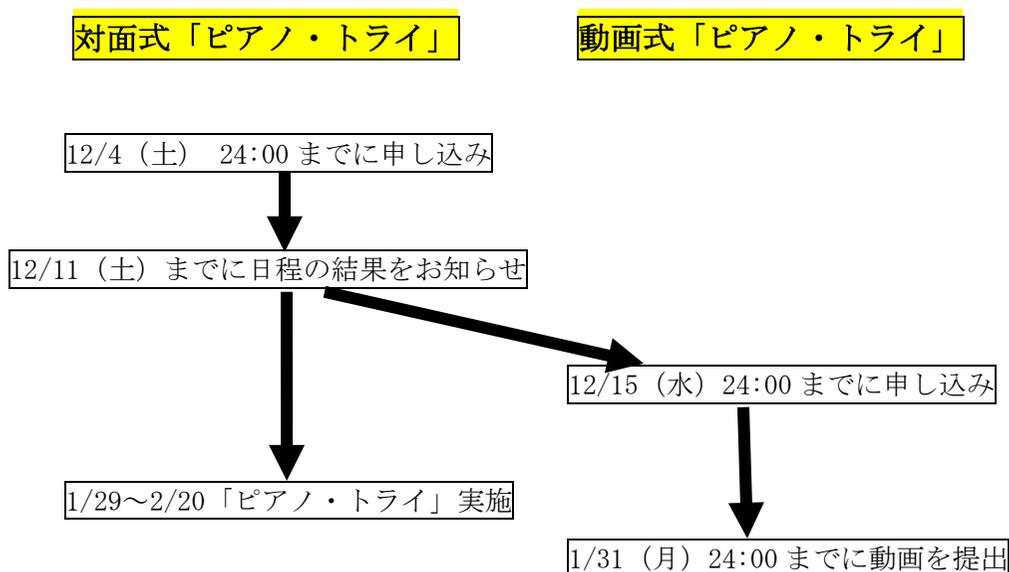
先日は、「対面式ピアノ・トライ」に、たくさんのお申し込みをありがとうございます。先月号でお知らせいたしましたように、今年度の「ピアノ・トライ」は、「対面式」と「動画式」の2方式選択制でおこないます。現在は、「対面式」の抽選結果を、メールでお伝えしているところです。

コロナの感染者が激減していることから、「対面式」をご希望の方がとても多く、倍率の高い抽選となってしまいましたことを、たいへん申し訳なく思っています。

惜しくも、「対面式」がかなわなかった方は、ぜひ「動画式」でご参加ください。「動画式」はご希望の方全員にご参加いただけます。

より多くの方のご希望をかなえたいところですが、今もヨーロッパではロックダウンがおこなわれ、日本も寒さが厳しくなる季節を迎えます。やはり「対面式」は、予定通り少人数のまま、安全第一で実施したいと考えています。来年こそ、ご希望するすべての方に、「対面式ピアノ・トライ」にご参加いただきたいと願うばかりです。

詳細は、先月号の「とらいあぐる」に載せましたので割愛させていただき、今後のスケジュールのみ、再掲します。



◆客員教授の先生の日程

例年、3月には、客員教授のプリドノフ先生ご夫妻をお招きし、レッスン、コンサート、オーディション（ジュニコン・オーディション）をおこなっています。

昨年と一昨年は、コロナを理由に、来日自体が取りやめとなってしまいました。たいへん残念なことでした。「オーディション」だけ、実施しました。

今年度は、今のところ、来日の予定です。日程は、以下のとおりです。コンサートの場所は、「ひびきホール」です。感染防止につとめて、開催いたします。

レッスン	: 3月12日（土）・13日（日）他 要相談
コンサート	: 3月20日（日）
オーディション	: 3月21日（祝）

万が一、コロナの感染が再拡大して、来日が中止になった場合も、オーディションだけはかならず開催します。2021年3月のように、動画審査方式でおこなうこととなります。準備は無駄になりませんので、エントリーをお考えの生徒さんは、担当先生とも相談の上、準備に入ってください。

2022年4月時点で、小学校4年生から高校3年生までの生徒さんが対象となります。くわしい要項は、次号の「とらいあんぐる」に掲載します。

「ジュニア・コンサート」は、2022年4月27日（水）夕方、大泉学園「ゆめりあホール」にて、開催予定です。ご不明な点は、本部までお気軽にお問い合わせください〔担当：谷口〕。



◆「フォルテの会」を対面式で開催します

「フォルテの会」は、声楽、ヴァイオリン、フルート、作曲、「うたくらぶ（合唱）」の生徒さんの発表会です。

こここのころ、「フォルテの会」は、開催方式をめぐって、翻弄されてきました。声楽や合唱は、特に注意を払わなくてはなりません。

昨年度の「フォルテの会」は、動画式とさせていただきました。今年度は、厳重な感染防止対策のもと、対面式で開催いたします。

日時：2022年2月6日（日） 開演13：00

場所：ひびきホール

客席の前半分を空席とし、演者の生徒さんとお客様がじゅうぶんに距離を保てるようにいたします。客席は、椅子を相互に離して設置します。参加人数によっては、少人数の部編成とし、入れ替え制とします。

感染を防止するため、スタッフ一同、鋭意努力いたしますので、ふるってご参加ください。



◆在籍生徒さん向けのキャンペーンについて

年があげますと、教室は例年、在会の生徒さん向けにも、教室外の一般の方向けにも、広くキャンペーンをおこなってきました。ですが、この2年は、コロナ感染防止のため、教室外の方に向けての無料キャンペーンを中止してきました。来年1～2月の感染状況は分かりませんが、今年度もキャンペーンを中止する予定です。

キャンペーンをおこないますと、多くの方が教室を訪れ、密を招く危険性があるからです。今現在も、グルーブレッスンは人数制限をもうけているくらいですので、妥当な措置だと思っています。

在会の生徒さんと、そのごきょうだい、ご家族の方に限っては、例年通りのキャンペーンをおこないます。生徒さんが新年度からのレッスンをお決めになる際、「お試し」は欠かせないと考えるからです。

体験したら、そのコースをとらなくてはいけない、ということは、一切ありませんので、お気軽におためしください。

体験レッスンは、3種類です。

お分かりにならないことは、ご遠慮なくおたずねください。ご相談に乗りながら、おすすめの体験レッスンをご案内いたします。

1. アドバンスAのピアノレッスン30分体験

アドバンスAの先生のレッスンは、通常期間、体験していただく場合、体験料のご負担が重いですが、キャンペーン期間（2022年1月15日～2月20日）にお申し込みいただいた場合にかぎり、下記の体験料でお受けいただけます。

30分 2470円（全ての曜日共通）

「〇〇先生のレッスンを」と、担当先生を指名していただくことができます。

すべての方が対象です。アドバンスAのレッスンをすでに受けていらっしゃる生徒さんも、他の先生のレッスンをおためしいただけます。

「どの先生で受けたら良いか分からない」という場合は、本部にご相談ください。

2. リトミックレッスン無料体験

原則として、お一人、1回とさせていただきます。(年齢構成や担当や曜日など、複数回おためしになりたい場合は、ご相談ください。)

すべての方が対象です。

特に、現在、リトミックをお受けになっていらっしゃらない方は、ぜひ体験レッスンをお申し込みください。かつてリトミックをなさっていた方も、今現在の年齢のクラスをおためしになることをおすすめします。

リトミックでは、ピアノのレッスンではじゅうぶんに扱わない表現やリズムのお勉強をします。リトミックでしか扱わない教材もありますので、原則、すべての方におとりいただくことをおすすめしています。

3. レギュラーのピアノレッスン30分無料体験

お一人、1回のみとさせていただきます。

現在、ピアノを受講していない生徒さんが対象です。

現在、リトミックを受講していらして、ピアノをおはじめになることを検討していらっしゃる生徒さんに、ぜひ活用していただきたいと思います。

ピアノをおはじめになる年齢に達していらっしゃらない生徒さんで、まだ絶対音感のレッスンをお受けになっていない生徒さん(ベビーリトミッククラスの生徒さん等)は、絶対音感のレッスン(20分)を無料でご体験いただけます。

1と2は、2022年1月15日～2月20日、3は、2022年1月15日～4月17日を、キャンペーン期間とさせていただきます。



◆ 「ドクターP」について

「ドクターP」は絶対音感の通信コースです。現在、満員のため、予約受付をお休みしていますが、予約済みの方を順次、ご案内しています。

教室の生徒さんは、現在、お通いになっている方のみ、「ドクターP」を優先的に受講できます。この優先権は、お通いになられるのをやめた時点で消失します。

つまり、教室をやめて「ドクターP」に行くことができません。並行はできますが、移行はできません。

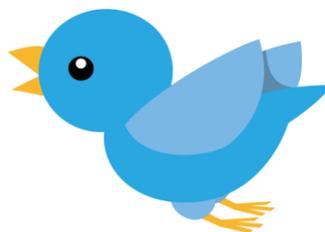
たいへんご不便をおかけしますが、現在、予約待ちの方の中には1年近くお待ちになっている方もいる状況でして、教室からの移行ができる形にすると、順番の列が進まなくなってしまいます。ご理解ください。

ただし、明らかに通えない距離に転居される方だけは例外的に、「ドクターP」に移行していただくことができますので、ご相談ください。

さて、ながらくお休みをいただいていたが、予約受付を再開できる見込みとなりました。「ドクターP」への移行をご検討中の方は、ご予約を入れてください。予約後、順番がまわってきたらかならず「ドクターP」をはじめなくてはいけない、ということはありません。とりあえず順番をとっておく、という形でも大丈夫です。

2022年2月11日正午に、予約受付を再開します。先着順でご案内します。ただし、以下の2点につきまして、ご注意、ご了承いただきたいと思えます。

- ① ご予約からご案内まで、お待ちいただきます。どのくらいお待ちいただくかは、受付の順番次第です。
- ② ご予約の方が想定よりも多かった場合、受付を再度、お休みさせていただく場合がございます。



◆ 1年間、ありがとうございました

昨年は、コロナの問題が持ち上がり、おとなが右往左往しましたが、今年はコロナ生活がじわじわとお子さまの生活に影響を与えていることを痛感した1年でした。

今年、子どもの鬱や自殺件数が、過去最多であったという報道は、なんともやりきれない思いがいたします。

今年、一音会の生徒さんは、1年間、がんばっておけいこをお続けくださいましたね。その背後には、ご家族の皆さまの惜しみないご協力がありました。たくさんの生徒さんの笑顔を拝見できるありがたさを、今、強く感じています。1年間、本当にありがとうございました。

冬休み中、一音会本部は12月23日（木）より1月6日（木）まで、お休みをいただきます。勝手ながら、その間は、電話でのご相談もお休みさせていただきますこと、どうかご了承ください。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。

2021年のあゆみ

1月7日	2021年 レッスン開始日	
1月	ピアノ・トライ（動画提出方式） 実施	
2月7日	第22回「フォルテの会」	（You Tube 限定配信）
2月14日	第66回「ル・コンセール」	於 ひびきホール
2月21日	第67回「ル・コンセール」	於 ひびきホール
	「動画 ル・コンセール」	（You Tube 限定配信）
3月14日	第15回「ジュニア・コンサート・オーディション」	
		於 ひびきホール
4月6日	2021年度 レッスンスタート	
4月27日	第15回「ジュニア・コンサート」	於 ひびきホール
8月6日～9日	2021ピアノ発表会	於 成増アクトホール
11月3日	第22回「音楽の集い」	（You Tube 限定配信）
12月22日	2021年 レッスン最終日	

